



天皇陛下御即位記念 第34回国民文化祭にいがた2019
第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

上越アール・ブリュット公募展

作品募集

募集期間 2019 7.22月 - 8.13火



モノと
モノガタリ、
集めます。

偶然できたもの、
意図してつくったもの、
引き出しにしまったもの、
引き出しに入りきらないもの、
それを誰かに見せたい気持ち、
よくわからなくて困ったけれど
ずっと頭の中に残っている
出来事。
教えてください。
あなたの「モノとモノガタリ」。

モノとモノガタリ、集めます。

アール・ブリュットの特徴の一つは、「作品」が作っている人と周りの人との関係の中で生まれている点です。例えば作者本人が「作品」と意図せずに作ったものでも、周りにいる人たちが魅力を感じ、展覧会で「作品」として紹介されている面もあります。周りにいる人たちが、どのような視点 / 価値観を持って作者の表現を見つめるかが大きく作用する分野と言えます。周りにいる人たちは、作者の家族や、友人、職場の同僚、福祉施設職員の人など様々です。今回の上越アール・ブリュット公募展では美術的な価値判断だけではなく判断基準で作品の選定を行います。多様な価値が並列して存在していることを示す、そんな展覧会にしたいと思っています。テーマは「モノとモノガタリ」。みなさんのご応募を、お待ちしております。

上越アール・ブリュット公募展

2019.10.26(土) → 10.29(火) 10:00-17:00

ミュゼ雪小町 (〒943-0832 新潟県上越市本町5丁目4-5)、他



アール・ブリュット

とは？



アール (Art) は「芸術」、ブリュット (Brut) は「磨かれていない (加工されていない) 生のままの」という意味を表すフランス語です。文化的な伝統や流行、教育などと関わらず、独自の発想と方法により制作した作品のことを指します。

選定委員 紹介



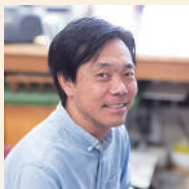
様々な分野で活躍される専門家のもと、多様な評価軸で作品選定を行います。選定委員は観客に作品の面白みをガイドする案内人、ナビゲーターです。



アサダ ワタル

文化活動家、
品川区立障害児者総合支援施設
コミュニティアートディレクター

1979年生まれ。音楽や対話を手立てに、福祉施設や街場、学校や復興団地などで様々なアートプロジェクトを展開。2019年より現職。障害のある人と地域をつなぐアクションを行っている。著書に『住み聞き』（筑摩書房）、『想起の音楽』（水曜社）、『アール・ブリュットアート 日本』（平凡社、編著）など多数。博士（学術）。



たんじ よしひこ 丹治 嘉彦

美術家、
新潟大学人文社会科学系教育学系列教授

1960年福島市生まれ。新潟市在住。東京藝術大学大学院美術研究科修了。2011年より現職。大地の芸術祭（2003）、水と土の芸術祭（2009）、瀬戸内国際芸術祭（2010）に出展。2001年より隔年でアートプロジェクト「内野 DE アート」をプロデュース。2012年、2015年に「水と土の芸術祭」アートディレクターを務める。



さとみ きくお 里見 喜久夫

季刊『コトノネ』発行人／編集長

2012年に障害者の「はたらく」をテーマにした季刊『コトノネ』を創刊。編集長を務める。編著にドイツW杯を記念して、選手のいない写真集『06 GERMANY』を出版。LLブック「仕事に行きます」シリーズ、「いっしょが、たのしい」。絵本に、『ボクも、川になって』、『もんばんアリと、月』など。日本ペンクラブ会員。



こいずみ ともひろ 古泉 智浩

漫画家

1969年2月生まれ。新潟市在住。1993年講談社ヤングマガジンちばてつや賞受賞。代表作『ジバンバルロック』『死んだ目をした少年』『うちの子にならなよ』など。趣味は堤防からの海釣りや映画鑑賞。



いしだ こうじ 石田 浩二

一般社団法人新潟県介護支援専門員協会・
新潟県老人福祉施設協議会理事

福井県出身。法人内特別養護老人ホーム介護職、同デイサービスセンター管理者、同居介護支援事業所管理者等を経て、2014年法人施設長に就任。1999年より介護支援専門員実務研修指導者として従事。新潟県介護支援専門員協会養成研修委員会の委員長として、介護支援専門員の6つの法定研修の企画運営を行っている。



こんどう まりこ 近藤 麻理子

特定非営利活動法人
アビリティィ燕 理事長

新潟県燕市出身。1999年アビリティィ燕 監事を経て2001年より現職。現在グループホームアトム寮（共同生活援助）指定障害福祉事業所トム・ソヤ（就労継続 B 型、就労移行、生活介護）、相談支援事業所アリス（計画相談、一般相談）の管理者を兼務。2008年より燕市自立支援協議会委員を受嘱。趣味は絵画鑑賞と俳句。

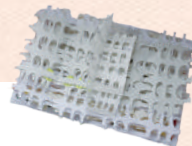


おがわ なおみ 小川 直美

社会福祉法人十日町福祉会
障がい者地域生活支援センターあおぞら
相談員

以前の所属は就労継続支援 B 型事業所でしたが、障がいのある方と生産活動を通して関わった中で、一番印象に残っていることが刺し子布巾の制作をしていたときの独創的な色使いです。個人的に編み物やアクセサリーなどクラフト活動が好きです。自分が素敵！と思える作品に出会えることを楽しみにしています。

教えてください、 あなたの 「モノとモノガタリ」。



「家族」とのモノガタリ

五井さんが毎日作る切り抜き。家族から見ると、よくわからない行為でしかなくて。弟さんはそんな兄がいることを知られなくて、友人が家に来ると「兄貴隠れろ」ってやってたそうです。職員さんが五井さんの行為と切り抜きの魅力に気づき、作品として展示されました。出展料がもらえたんです。弟さんが「兄貴すごいんだな」って尊敬するようになったんですって。五井さんと五井さんが作り続けてきたモノに対する、家族の視点が変わったんです。

—— 語り：展示ディレクター

エッセイ

作り続けているもの

日記

よくわからないけど、
なんだかすごいもの

思いついた
キャッチコピー

強いこだわりが
感じられるもの

呪文



「周りの人」との モノガタリ

井口さんは自分の顔をその日に選んだ気に入ったものを写し撮ることを毎日の日課としている人です。コンビニはもう 15 年以上通っているからね。終わると店員が手際よくガラス面についた顔の脂をふき取るシステムになっているらしい。井口さんの幸福に満ちた作品。世界でこれをやっているのは井口さんだけという奇跡に私たちは立ち会っています。コンビニの店員と一緒に（笑）

—— 語り：福祉施設職員



「ひらめき」のモノガタリ



3 年生の冬に友達が自由帳で大きく迷路を書いていました。それをジ〜と見ていたらトツゼンひらめきて自分は小さく迷路を書いたらみんなが驚いてそのご 5 年生のときに色付きの 0.3 ボールペンでアイデアいっぱいまで今日に続いたのです。あなたはこの迷路を果たしてクリアできますか？

—— 語り：石栗さん（作家本人）

記録を読み返してみると、齋藤さんのコツコツ真面目な様子と、ペンを持つ作業の時は、合間をみて隙間に何かを描きたような様子が度々残されていました。年配の男性利用者さんが、そっと白い紙とペンを手渡し、「この子はね、絵を描くのが得意なんだよ」と教えてくれたのがきっかけです。その利用者さんの隣で黙々と取り組み、白い紙に不思議な模様がが増えていく様子に驚いたことを今でも覚えています。

—— 語り：福祉施設職員



「気づき」の モノガタリ

応募要項

■応募資格

新潟県内在住の方。自薦他薦は問いません。

■募集作品

既成の枠にとらわれない自由でありのままの表現から創出された作品。

- ・作り続けているもの
- ・こだわりが感じられるもの
- ・独特の表現方法でつくられたもの
- ・今までにみたことのないようなもの
- ・暮らしの中のありふれた素材で作られたもの ... などなど

■応募条件

入選された場合、2019年10月26日(土)～29日(火)にミュゼ雪小町(新潟県上越市)で開催予定の展覧会での展示、メディアなどの掲載に同意いただけること。

■応募方法・一次選考

応募用紙に、記入見本を参考にして必要事項をご記入の上、作品の写真を貼付して郵送ください。

※一次選考は、写真による審査となります。

※応募用紙の様式は、Webサイトからもダウンロードいただけます。

■添付する作品の写真

平面作品は、2枚/作品(全体像が把握できる写真と細部を映した写真)、立体作品は、4～5枚/作品(全体像が把握できるように、撮影角度・方角を変えた写真)を応募用紙に添付してください。サイズは、L判(89mm×127mm)あるいは、はがき大(100mm×148mm)とし、写真の裏側に、作家名・作品名をそれぞれに明記してください。

※応募用紙及び、写真は返却いたしません。

■応募受付期間

2019年7月22日(月)～8月13日(火)《必着》

■一次選考結果・二次選考(訪問調査)

一次選考を通過された場合のみ、2019年8月末日までに書面にて通知いたします。

一次選考を通過した作品については、訪問調査で二次選考をさせていただきます。二次選考を通過した入選作品をミュゼ雪小町において展示します。詳細は訪問調査時に連絡いたします。

■出展料について

入選者へは事務局から出展料(1名10,000円)をお支払いします。

■展示作品の搬入・展示/搬出・返却

入選作品の作品搬入につきましては、訪問調査の際にご連絡いたします。搬出は展示会終了後、速やかに返却いたします(直接引き取り可)。

【送付先・お問い合わせ】

社会福祉法人みんなでききる
上越アール・ブリュット公募展係

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25-307

☎ 電話番号:025-530-7264 📠 FAX:025-530-7261

✉ E-mail:honbu@minna-de-ikiru.org

🌐 HP:http://niigata-artbrut.net/

🐦 Twitter: @JoetsuAB

最新情報はツイッターアカウント

《上越アール・ブリュット公募展》をチェック! 📱



注意事項

■応募規約

本応募規約を全てお読みいただき、ご同意いただいた方のみご応募ください。なお、ご応募いただいた方は、本応募規約にご同意いただいたとみなします。

- ①当公募展の運営は、社会福祉法人みんなでききる(以下「当法人」という)[新潟県上越市西城町2-10-25-307 TEL:025-530-7264]が行います。
- ②当法人は、必要と判断した場合には、本応募規約を変更できるほか、当公募展の適正な運用を確保するために必要なあらゆる対応ができるものとします。
- ③作品出品応募者は、当公募展にあたり、本応募規約及び当法人が定める運営方法に従うものとし、その運営方法について一切異議を申し立てないものとします。
- ④一次選考を通過された場合のみ、応募時にご提出いただいた連絡先に通知をいたします。その際に、二次選考(訪問調査)の日程調整をさせていただきます。
- ⑤二次選考(訪問調査)の際、作品出展についてご案内し、出展の可否について確認させていただきます。
- ⑥出展の可否について、概ね一週間以内にご返信いただけない方は、入選の権利を失う場合があります。
- ⑦当公募展に関しての応募によっていかなるトラブル、損害(直接、間接の損害別を問わず)が発生したとしても、当法人は一切の責任を負いません。
- ⑧当公募展への応募に関連して、運営に損害等が発生した場合には、応募者が紛争解決の責任や賠償責任を負うこともあります。
- ⑨本応募規約に違反した場合、出展について取り消しとなる場合があります。
- ⑩作者と推薦者が異なる場合、応募に際しては、作者及びご家族等の承諾を得てください。
- ⑪次のいずれかに該当する作品は応募できませんのでご注意ください。(ア)本応募規約に反する作品(イ)公序良俗に反するか、または反するおそれのある作品(ウ)法令等に違反するか、または違反するおそれのある作品(エ)第三者の著作権、肖像権その他の権利を侵害するか、または侵害するおそれのある作品

■著作権・利用権:①作品の著作権は作者に帰属しますが、アール・ブリュットの活動の普及と振興をはかる目的として、広告・宣伝、作品の展示、作品集の制作、当法人のHPや関連サイトで使用する場合があります。②第三者から貸出し等のご要望を受けた場合は、当法人から出品申込書に記載されている連絡先へお繋ぎします。

■応募作品の扱い:①当公募展へのご応募によりお寄せいただいた作品及び情報は、当法人が管理いたします。②取り扱いには十分に注意いたしますが、出品作品に関して生じた事故に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

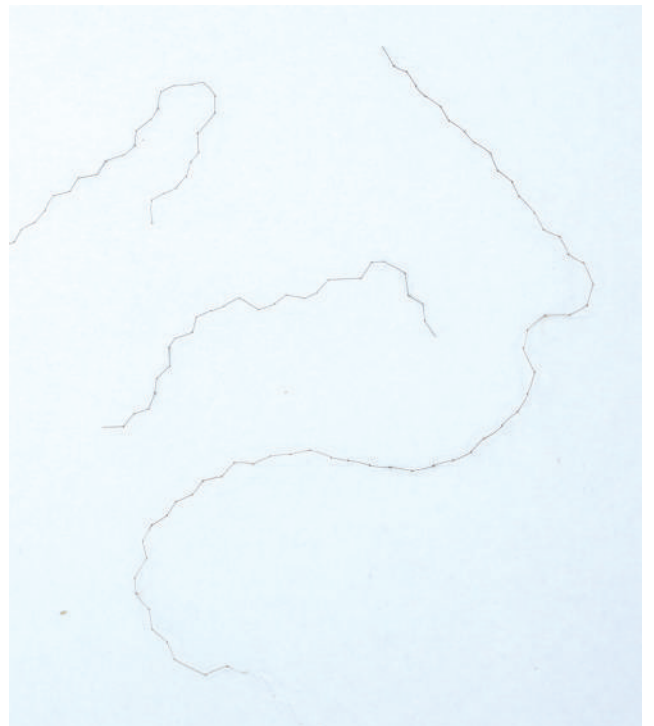
■個人情報の利用目的:ご応募いただいた方の個人情報に関しては、法令および、当法人個人情報保護方針に基づき、厳正に管理いたします。

氏名	ふりがな じょうえつ たろう	生年月日	西暦 1990年 1月 23日
	上越 太郎 (作家名 ※作家名で表示してほしい場合は記入してください)		(29 歳)
連絡先	作者本人・推薦者	住所	新潟県上越市〇〇町1-2-3
	(該当を○で囲んでください)	電話番号	080-■■■■-△△△△ ※連絡がとれる電話番号を記入してください
作品題名	ふりがな むだい	無題	
作品点数	点	大きさ	高さ なし センチ 幅 10 センチ 奥行き なし センチ
	数えきれない		※数えきれない場合は該当を○で囲んでください

作者による作品のPRや紹介など、ご自由に記入してください（200字程度）

髪の毛が均等な間隔で只々結ばれているだけだが、その単純さによって生まれている毛のかたちには、独特なリズムある。また、その均等さや髪の毛が端まで結ばれているなど恐ろしいほどの高い技術で結ばれている。実際に手にとって毛の上に指を滑らせると言い様のない気持ちになる。

作品写真（全体がわかるもの）を貼付



【語り】について

上越アール・ブリュット公募展 出品申込書【裏】

語り手	作者本人・ 推薦者 (該当を○で囲んでください)	語り手の 名前	ふりがな じょうえつ はなこ 上越 花子	作者との 関係	姉
<small>※語り手が作者本人の場合は記入不要です</small>					

【推薦者記入】モノにまつわる作者とのエピソードを記入してください。

アール・ブリュット展を見て感化された福祉施設職員が、その後自分の施設に戻り施設の中を眺めた際に、更衣室の床に奇妙な毛が落ちていることを発見。よく見ると結ばれていることに驚き、それ以降床に落ちている毛を探し集めていた。その後、太郎さんが作者だと特定する。現在では、職員が太郎さんに毛を渡し結んでもらっている。

【語り】にまつわる写真を貼付〔例：制作風景、エピソードにかかわる出来事の写真など〕

